

# 名もない今日を

## ■ 楽曲データ

歌詞：蓬萊泰三 作詞

楽曲：南安雄 作曲

発表：浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

初演：—

初出：『名もない今日を』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

管理番号：M1558

## ■ 創作の経緯

1976年に委嘱、翌年「青年の歌」として発表。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第6巻収録

底資料：『名もない今日を』 浄土真宗本願寺派仏教音楽研究所 1977年

比較資料：—

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

### ◆ 詞について

作詞の蓬萊泰三（兵庫県出身、1929年～）は、作曲の南安雄とのコンビで手掛けた児童合唱曲で知られています。NHKのテレビドラマ『中学生日記』の脚本家でもあります。

蓬萊さんは、「人と人とのつながりは、おたがいの痛みを感じあえたとき、はじめてたしかなものになるはずです。そんな感受性を失ってしまったような、いまの日本のわたしたちが、それぞれ、なんとなく、孤独なのは、あたりまえだともいえます」と述べています（楽譜『合唱組曲《日曜日》』より）。

《名もない今日を》は、この言葉の延長線上にある作品、と味わえないでしょうか。詞の中に、仏教用語はひとつも出てきませんが、手を組んで歩もうという呼びかけに、「御同朋・御同行」と示された親鸞聖人のみ教えが込められているようです。

### ◆ 作曲者について

作曲の南安雄（京都府出身、1931～2012）は、NHKの番組や東映の音楽などを多く手がけ、合唱曲にも数々の名曲を遺しました。蓬萊とペアを組んだ合唱

組曲《日曜日》や《チコたん》は、大阪弁の詞をいかした曲となっています。

#### ◆歌いかた

- ①歌い出し（5小節目）のテヌートは、1音1音を保って自由なテンポで歌い、次の小節で前奏のテンポに戻ります。9小節目も同じように。
- ②6小節目の長い音符は、伸ばしている間も伴奏のリズムを感じ、間延びしないようにしましょう。10小節目、16・17小節目、25小節目なども同じです。
- ③13・14小節目には、1オクターブの跳躍が出てきます。音程やタイミングがしっくり合うように、練習してください。
- ⑤17小節目後半～21小節目は、8分音符の連なりをレガートに（なめらかに）歌いましょう。
- ⑥26小節目からは、二部合唱として作曲されています。旋律は、26～30小節目前半までがソプラノ、30小節目後半からはアルトに移ります。メロディーの受け渡しを意識して歌いましょう。
- ⑦34小節目は、16分音符の動きをはっきりと歌いましょう。

#### ◆用途・音源

「青年の歌」として作曲されましたが、若婦人（女性）の集いなどでも歌っていただきたいものです。伴奏にギターを使ってもよいでしょう。

音源は、CD『響流十方』に収録されています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 40（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第167号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.